

第20回（令和4年度第1回）  
セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会

《会議次第》

日時：令和4年8月23日（火） 18時30分～

場所：久留米市公社会館メルクス 3階大ホール

議題

（1）委員長・副委員長の選出について

（2）セーフコミュニティの認証取得にかかる事前指導の実施について

資料1

（3）事前指導のプレゼンテーションについて

資料2

（4）その他

## 外傷等動向調査委員会 委員名簿 (敬称略・順不同)

| 団 体 名                 | 役 職          | 氏 名    |
|-----------------------|--------------|--------|
| 学校法人 久留米大学            | 教授           | 山下 典雄  |
| 一般社団法人久留米医師会          | 理事           | 三宮 貴彦  |
| 社会医療法人雪の聖母会<br>聖マリア病院 | 救命救急センター長    | 爲廣 一仁  |
| 損害保険ジャパン株式会社          | 久留米保険金サービス課長 | 中尾 直人  |
| 久留米広域消防本部             | 救急防災課長       | 仲 賢一郎  |
| 久留米市保健所               | 所長           | 吉田 まり子 |
| 久留米市                  | 協働推進部長       | 黒岩 竹直  |

〈事務局〉 久留米市 協働推進部 安全安心推進課

久留米市 健康福祉部 保健所総務医薬課

## 1. セーフコミュニティとは

### (1) セーフコミュニティの認証制度

セーフコミュニティとは、「けが」や「事故」など日常生活のなかで私たちの健康を阻害する要因を「予防」することによって、安全なまちづくりを進めているコミュニティのことである。

コミュニティからの申請に基づき、セーフコミュニティ認証センター（スウェーデンに本部を置く国際 NGO 組織）が指標を満たしていると認めたコミュニティに、5年間の国際認証が与えられる。

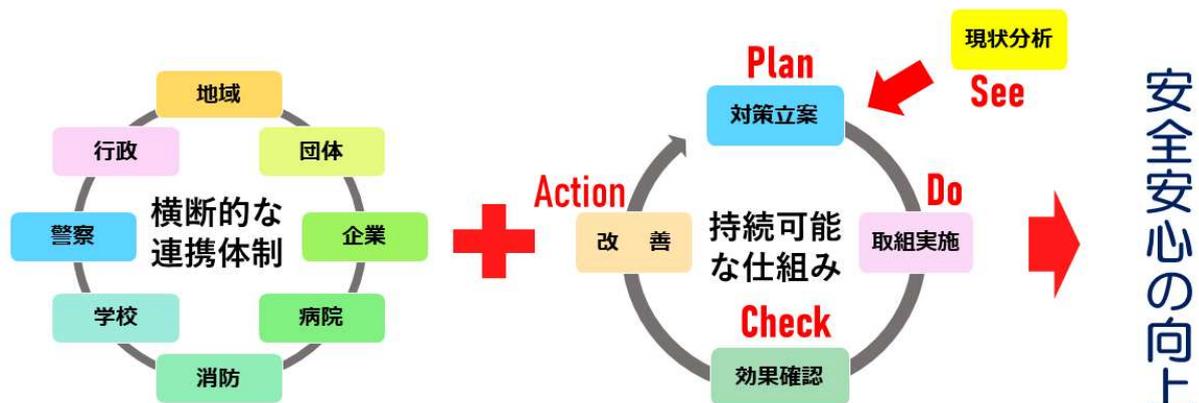
#### セーフコミュニティの7つの指標

1. 分野を超えた協働による基盤に基づいて取組を進める。
2. 全ての性・年齢、あらゆる環境・状況を対象とした継続的・長期的な取組みを実施している。
3. ハイリスクの集団や地域、弱者を対象とした取組を実施している。
4. 科学的根拠に基づいた取組みを実施している。
5. けがやその原因となる事故などの頻度や原因を記録する仕組みがある。
6. 取組の内容・推進過程及びその影響（取組の成果）を評価する（振り返る）基準（仕組み）がある。
7. 国内外のネットワークに積極的に参加・貢献している。

### (2) セーフコミュニティの特徴

セーフコミュニティのキーワードは、データ、予防、協働である。

セーフコミュニティの特徴は、様々な統計データやアンケートなどを活用して、現状把握、課題分析を行い、地域が一体となった協働により予防策を講じ、その効果を検証し、取り組みの更なる改善を図っていくという進め方である。



### (3)国内の認証団体

(13 団体)

|     | 自治体等名称    | 1 回目の認証取得年 | 認証取得回数 |
|-----|-----------|------------|--------|
| 1   | 京都府亀岡市    | 平成 20 年    | 3 回    |
| 2   | 青森県十和田市   | 平成 21 年    | 3 回    |
| 3   | 神奈川県厚木市   | 平成 22 年    | 3 回    |
| 4   | 長野県箕輪町    | 平成 24 年    | 2 回    |
| 5   | 東京都豊島区    | 平成 24 年    | 2 回    |
| 6   | 神奈川県横浜市栄区 | 平成 25 年    | 2 回    |
| 7   | 大阪府松原市    | 平成 25 年    | 2 回    |
| 8   | 福岡県久留米市   | 平成 25 年    | 2 回    |
| 9   | 埼玉県秩父市    | 平成 27 年    | 2 回    |
| 1 0 | 鹿児島県鹿児島市  | 平成 28 年    | 2 回    |
| 1 1 | 福島県郡山市    | 平成 30 年    | 1 回    |
| 1 2 | 埼玉県さいたま市  | 令和元年       | 1 回    |
| 1 3 | 山梨県都留市    | 令和 3 年     | 1 回    |

## 2. 久留米市の取組経過

### (1)セーフコミュニティに取り組んだ理由

久留米市では、安全安心やまちづくりに関する課題を解決するためのツールとして、セーフコミュニティに着目し、平成 23 年にセーフコミュニティ取組宣言を行った。

#### 当時の課題

#### ①事故や犯罪、暴力事件に対する市民の不安感

- 暴力団の抗争事件が相次ぎ、体感治安の悪化が懸念されていた
- 交通事故や犯罪認知件数、自殺者数などが高水準であった。

#### ②協働のまちづくりの推進

- 協働のまちづくりを進めるには、協働をわかりやすく示す必要があった。

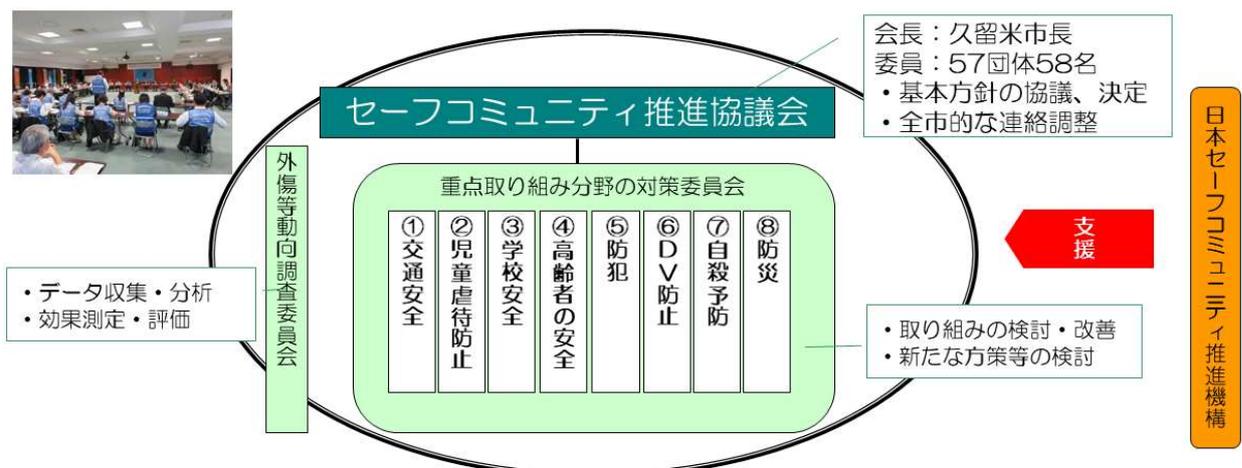
## 取り組んだ理由

- ① セーフコミュニティに取り組むことで、安全安心の向上が期待できる。
- 客観的なデータに基づいた予防と成果分析を行うことで、安全安心に関する重点的な課題や、取組内容、取組の成果など、市の施策展開を市民に示すことができる。
- ② セーフコミュニティは、協働を進めるツールとして有効である。
- 地域が一体となって安全安心に取り組むセーフコミュニティの仕組みを活用することで、これからのまちづくりに必要な協働を「見える形」にすることができる。

## (2)これまでの経過

|          |  |
|----------|--|
| 平成 22 年度 | 既存データの収集・分析、既存取組みの整理                           |
| 平成 23 年度 | セーフコミュニティ取組み宣言<br>セーフコミュニティ推進協議会・庁内組織などの体制整備   |
| 平成 24 年度 | 対策委員会、外傷等動向調査委員会の設置<br>具体的施策の検討<br>1 回目の認証事前指導 |
| 平成 25 年度 | 1 回目の認証本審査<br>1 回目の国際認証取得                      |
| 平成 29 年度 | 2 回目の認証事前指導                                    |
| 平成 30 年度 | 2 回目の認証本審査<br>2 回目の国際認証取得                      |

## (3)推進体制



- ◆ 久留米市では、統計データや各種意識調査を基に、重点的な課題を抽出し、8つの対策委員会を組織した。

### 3. 久留米市の重点分野について

セーフコミュニティでは、地域の安全課題のなかから、重点的に取り組む分野を設定する。

久留米市においては、安全や安心に係る様々なデータ、過去の市民意識調査等のアンケート調査結果、国際認証機関の示す取り組み分野の例示等を勘案し、以下理由により6つの分野を重点取り組み分野とした。

|   | 重点取組分野              | 選定の主な理由  |
|---|---------------------|--|
| 1 | 交通安全                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・久留米市では、交通事故が、病気を除く死亡原因で、自殺の次に多くなっている。(人口動態統計)</li> <li>・平成10年以降、高齢者や子ども交通事故発生件数の割合や自転車の交通事故発生件数が福岡県平均より高い状態が続いている。(警察統計)</li> </ul>  |
| 2 | 子どもの安全              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待を含む児童相談件数は増加している。</li> <li>・「子ども(小学生以下)を虐待しているのではないかと思うことがある」と回答した保護者が2割以上いる。</li> </ul> <p>上記より「虐待を受けやすい子ども」をハイリスクグループと設定し、対策に取り組む。</p>   |
| 3 | 高齢者の安全              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の高齢者虐待相談・通報件数は、近年増加の傾向を示している。本市においても同様に、増減はあるものの増加の兆しを見せている。</li> <li>・高齢者虐待があるという話や実態を見聞きしたことがある方が1割弱いる。</li> </ul> <p>上記より「虐待を受けやすい高齢者」をハイリスクグループと設定し、対策に取り組む。</p>   |
| 4 | 犯罪・暴力の予防<br>(DVを含む) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口10万人当たりの犯罪認知件数が、全国や福岡県と比較して、H21年、H22年は水準が高くなっている。(警察統計)</li> <li>・市民意識調査で、取り組みが重要と考えている施策の上位にあがっている。(市民意識調査 H19年4位、H20年3位、H21年4位、H22年3位)</li> <li>・61.3%の人が「治安、犯罪発生の防止」が重要と考えている。(住生活に関する市民アンケート調査)</li> </ul> |
| 5 | 自殺予防                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺による死亡者は全国で3万人を超えており、自殺予防は国を挙げて取り組む喫緊の課題となっている。</li> <li>・久留米市において、病気を除く死亡原因では自殺が最も多くなっている。(人口動態統計)</li> </ul>  |
| 6 | 防災                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査で、取り組みが重要と考えている施策の上位にあがっている。(市民意識調査 H19年3位、H20年4位、H21年3位、H22年9位)</li> <li>・45.4%の人が「火災・地震・水害などに対する安全」が重要と考えている。(※住生活に関する市民アンケート調査)</li> </ul>  |

#### 4. 久留米市の重点取組項目について

セーフコミュニティにおける重点取組み項目について、安全や安心に関係する様々なデータ、過去の市民意識調査等の結果に基づき、以下のとおりとする。

| 重点取組分野 | 重点取組項目       | 主な選定理由  | 対策委員会  |
|--------|--------------|---|--------|
| 交通安全   | ① 高齢者の交通事故防止 | ・市内における交通事故死者数のうち高齢者（65歳以上）の割合は約5割と高い（5ヵ年平均49.0%）。〔警察統計〕  | 交通安全   |
|        | ② 自転車事故の防止   | ・市内における自転車事故発生件数（人口10万人あたり）は、近年減少傾向にはあるものの、全国、福岡県と比較して高い。〔警察統計〕   |        |
| 子どもの安全 | ③ 児童虐待の防止    | ・虐待を含む児童相談件数は増加している。<br>・「子ども（小学生以下）を虐待しているのではないかと思うことがある」と回答した保護者が2割以上いる。<br>〔次世代育成支援に関するニーズ調査〕                      | 児童虐待防止 |
|        | ④ 学校の安全      | ・子どもが自宅以外でけがをした状況では、学校（屋外及び屋内）でのけがが11.8%と比較的多い。<br>・東日本大震災を契機として、子どもたちにも、「自ら身を守る力」が求められている。                           | 学校安全   |
| 高齢者の安全 | ⑤ 転倒予防       | ・救急搬送データにおける高齢者の受傷原因は、転倒によるもの(65.0%)が多い。  | 高齢者の安全 |
|        | ⑥ 高齢者虐待の防止   | ・全国の高齢者虐待相談・通報件数は、近年増加の傾向を示している。本市においても同様に、増減はあるものの増加の兆しを見せている。<br>・高齢者虐待があるという話や実態を見聞きしたことがあるという回答が1割弱。<br>〔高齢者実態調査〕 |        |

| 重点取組分野              | 重点取組項目                | 主な選定理由   | 対策委員会 |
|---------------------|-----------------------|--|-------|
| 犯罪・暴力の予防<br>(DVを含む) | ⑦<br>犯罪の防止・<br>防犯力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口 10 万人当たり刑法犯認知件数は、2009 年に増加しているものの、減少傾向にあるが、2009 年、2010 年は全国、福岡県と比較して高い水準である。</li> <li>・市民意識調査において、空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪(62.1%)、暴力行為や傷害、強盗、性犯罪などの凶悪犯罪(41.4%)など犯罪への不安が高い〔市民意識調査〕</li> </ul> | 防犯    |
|                     | ⑧<br>DV防止・早期発見        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性からの相談の中でドメスティック・バイオレンス(DV)に関する相談の割合が高い。</li> <li>・パートナーがいる(いた)人の39.3%がDVの経験がある。</li> </ul>   | DV防止  |
| 自殺予防                | ⑨<br>自殺・うつ病の予防        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の自殺者数は、近年60～80人/年で推移しており、病気を除いた死亡原因では最も多く、また、人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺率(2009年)も24.70にのぼっており、国(24.08)・県(23.39)と比較しても若干高い状況にある。〔人口動態統計〕</li> </ul>   | 自殺予防  |
| 防災                  | ⑩<br>地域防災力の向上         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害(地震・台風)に対する不安感が約8割と高い。〔市民意識調査〕</li> </ul>  | 防災    |

## 5. 事前指導について

平成 25 年 12 月 21 日に取得した「セーフコミュニティ国際認証」は、5 年毎に認証の手続きが必要です。平成 30 年 12 月に 2 回目の認証を取得し、令和 5 年が 3 回目の認証取得の年となります。

この認証を取得するには、取り組みの概要をまとめた認証申請書を国際セーフコミュニティ認証センターに提出するとともに、現地審査（本審査：令和 5 年 8 月予定）を受ける必要があります。

今回、令和 5 年度の本審査に向けて、これまでの久留米市の取り組み状況を確認する場として、事前指導をオンラインで実施します。

事前指導では、事務局（安全安心推進課）からの全体説明のほか、対策委員会毎の取り組みを各委員長（予定）がパワーポイントを使って説明し、国際セーフコミュニティ認証センターの審査員からの質問、助言を受けます。審査の最後には、審査員より全体を通した感想や助言、指摘などを講評として受けます。

○日 時：令和 4 年 12 月 20 日（火）～ 22 日（木）

○場 所：えーるピア久留米

○審査員：海外審査員 3 名

アドバイザー・コーディネーター（通訳） 白石陽子氏

○実施方法：オンライン（Zoom ウェビナー）

（参考）

他自治体のオンラインでの事前指導の様子





# 久留米市セーフコミュニティ 外傷等動向調査委員会

発表日 2022年12月 日  
発表者 外傷等動向調査委員会 委員長  
所 属

# 1 委員会の概要

# 1-1.外傷等動向調査委員会の構成メンバー

| 区 分     |   | 所 属                          |
|---------|---|------------------------------|
| 医療機関    | 1 | 久留米大学 医学部教授                  |
|         | 2 | 一般社団法人久留米医師会 理事              |
|         | 3 | 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター長 |
| 損害保険事業者 | 4 | 損害保険ジャパン株式会社 久留米中央支社 課長      |
| 関係機関    | 5 | 久留米広域消防本部 救急防災課長             |
| 行政機関    | 6 | 久留米市保健所 所長                   |
|         | 7 | 久留米市協働推進部 部長                 |

## 1-2.外傷等動向調査委員会の設置

SC認証センターが示す「セーフコミュニティ7つの指標」より

指標  
4

あらゆる入手可能な「根拠」に基づいた仕組み

指標  
5

外傷の頻度と原因を記録する仕組み

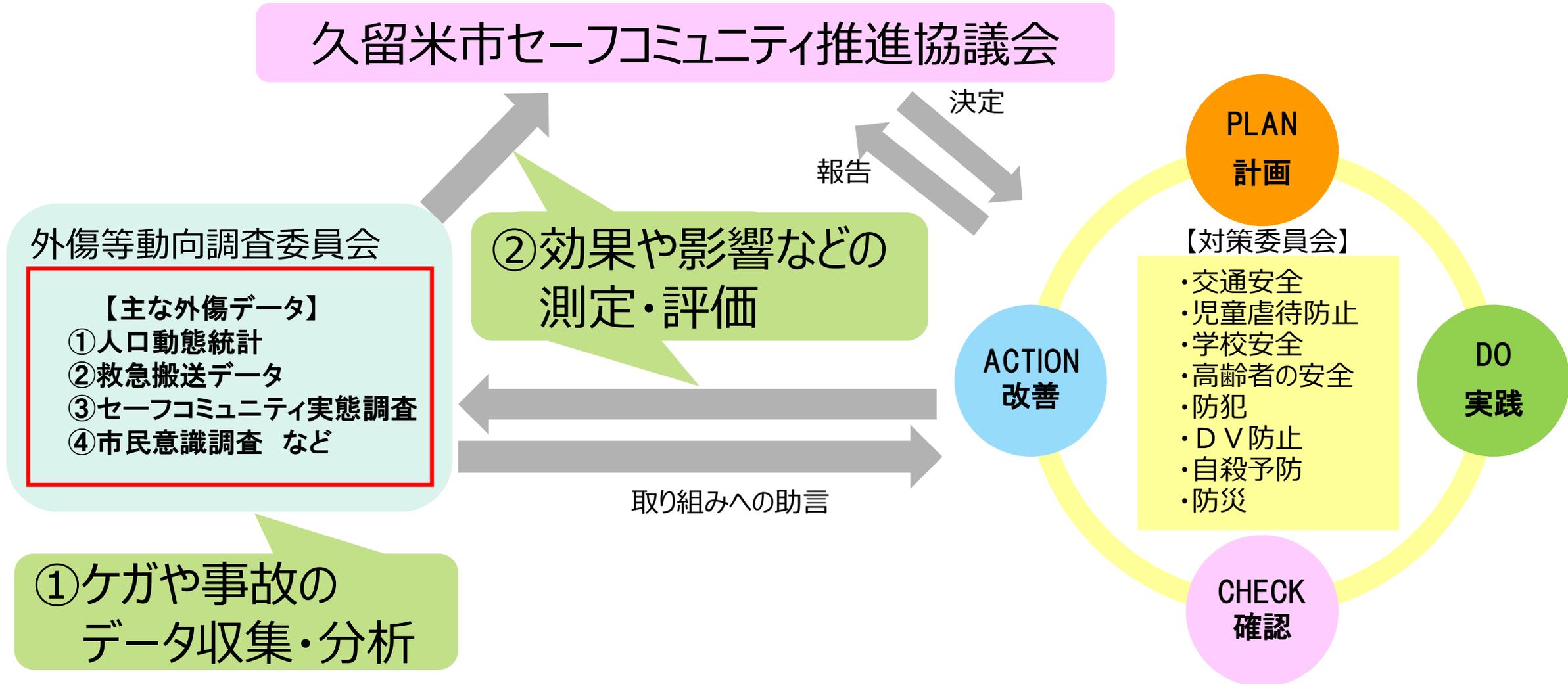
指標  
6

取り組みの内容・過程・変化による効果を測定・評価

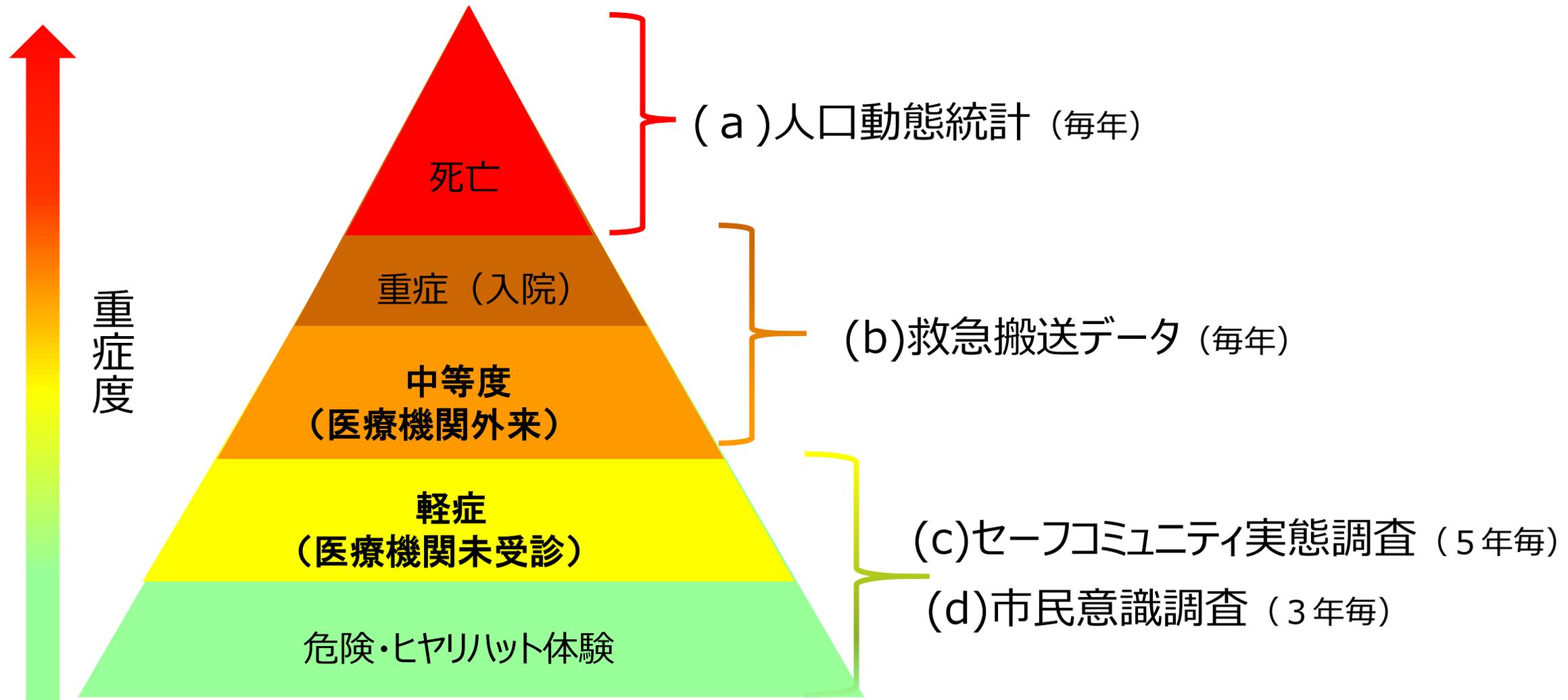
ケガや事故に関するデータ収集や発生動向の分析を行ない、取り組みの効果や活動の質を高めるための助言や評価を行う必要がある。

外傷等動向調査委員会の設置

# 1-3.外傷等動向調査委員会の位置付け



# 1-4.外傷の頻度と原因を記録する仕組み



# 1-5. 外傷データ収集と活用状況

| 対策委員会  | 外傷等動向調査委員会で収集・分析 |                |                      |                  | 各対策委員会で収集・分析 |                   |                |               |                  |             |         |               |         |           |                 |                |        |
|--------|------------------|----------------|----------------------|------------------|--------------|-------------------|----------------|---------------|------------------|-------------|---------|---------------|---------|-----------|-----------------|----------------|--------|
|        | (a)<br>人口動態統計    | (b)<br>救急搬送データ | (c)<br>セーフコミュニティ実態調査 | (d)<br>久留米市民意識調査 | 警察統計         | 自転車の安全利用に関するアンケート | 次世代育成に関するニーズ調査 | 家庭子ども相談課集計データ | 福岡県久留米児童相談所集計データ | 学校災害給付請求データ | 保健室けが調べ | 生徒への安全アンケート調査 | 高齢者実態調査 | 長寿支援課統計資料 | 男女平等推進センター相談の状況 | 男女平等に関する市民意識調査 | 厚生労働白書 |
| 交通安全   | ●                | ●              | ●                    | ●                | ●            | ●                 |                |               |                  |             |         |               |         |           |                 |                |        |
| 児童虐待   | ●                | ●              | ●                    | ●                |              |                   | ●              | ●             | ●                |             |         |               |         |           |                 |                |        |
| 学校の安全  | ●                | ●              | ●                    | ●                |              |                   |                |               |                  | ●           | ●       | ●             |         |           |                 |                |        |
| 高齢者の安全 | ●                | ●              | ●                    | ●                |              |                   |                |               |                  |             |         | ●             | ●       |           |                 |                |        |
| 防犯     |                  |                | ●                    | ●                | ●            |                   |                |               |                  |             |         |               |         |           |                 |                |        |
| DV防止   | ●                | ●              | ●                    | ●                |              |                   |                | ●             |                  |             |         |               |         |           | ●               | ●              |        |
| 自殺予防   | ●                | ●              | ●                    | ●                |              |                   |                |               |                  |             |         |               |         |           |                 |                | ●      |
| 防災     |                  | ●              | ●                    | ●                |              |                   |                |               |                  |             |         |               |         |           |                 |                |        |

## 2 再認証取得後の取組

2-1 委員構成の見直し

2-2 重点分野に関するデータの検証

2-3 対策委員会の取組成果の検証

## 2-1.委員会の構成メンバーの見直し

| 区分      |   | 所属                           |
|---------|---|------------------------------|
| 医療機関    | 1 | 久留米大学 医学部教授                  |
|         | 2 | 一般社団法人久留米医師会 理事              |
|         | 3 | 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター長 |
| 損害保険事業者 | 4 | 損害保険ジャパン株式会社 久留米中央支社 課長      |
| 関係機関    | 5 | 久留米広域消防本部 救急防災課長             |
| 行政機関    | 6 | 久留米市保健所 所長                   |
|         | 7 | 久留米市協働推進部 部長                 |

新メンバー

見直し理由① 交通事故に関する全国的な知見を活用

見直し理由② コミュニティの人材を活用

## 2-2.重点分野に関するデータの検証

### 久留米市の重点分野

#### 交通安全

(方向性)  
交通事故を減らす



#### 子どもの安全

(方向性)  
子どものケガや  
事故を予防する



#### 高齢者の安全

(方向性)  
高齢者のケガや  
事故を予防する



#### 犯罪・暴力の 予防

(方向性)  
犯罪・暴力を予防する



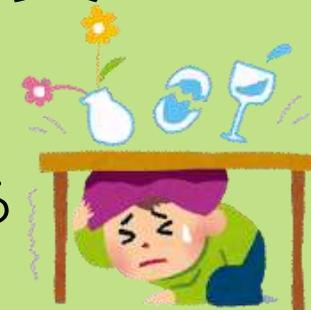
#### 自殺予防

(方向性)  
自殺者をなくす



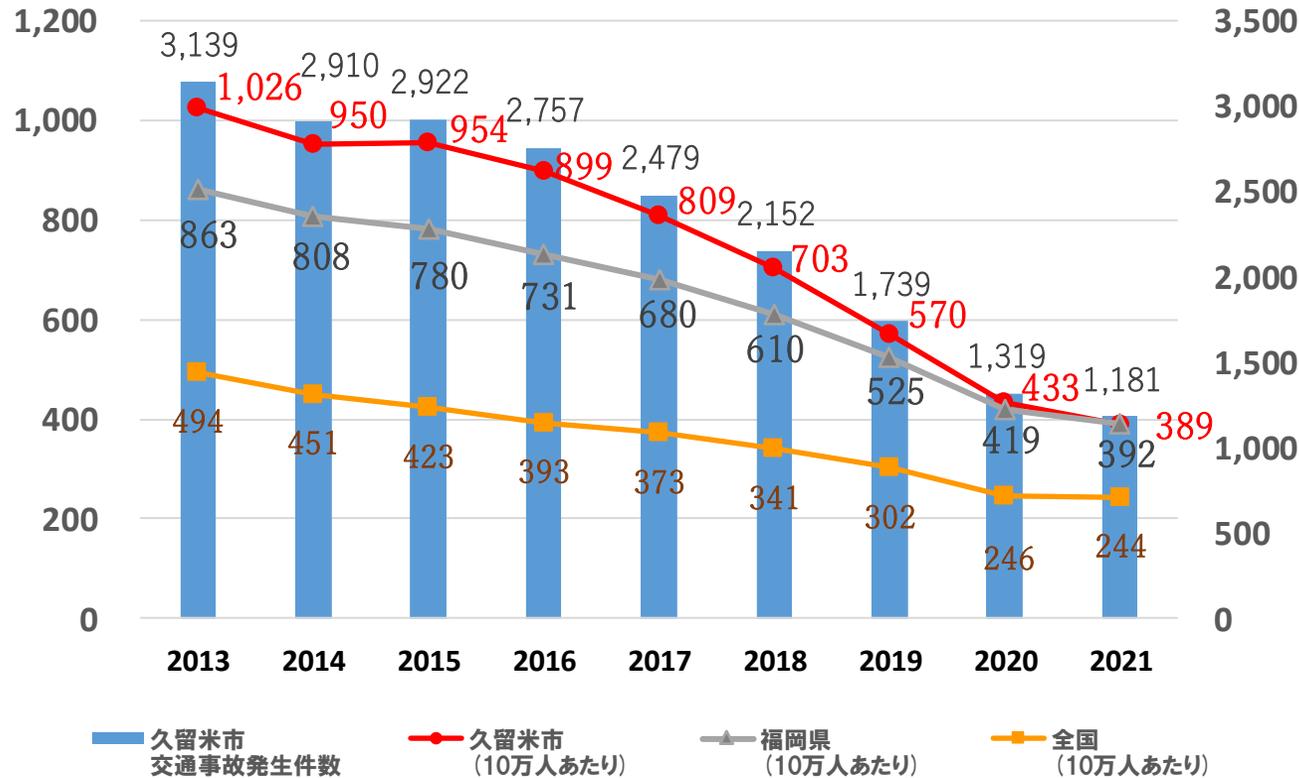
#### 防災

(方向性)  
災害に備える



# 2-2-1.交通安全に関するデータ

## 交通事故発生状況(警察統計)



- 交通事故は減少している。
- 全国に比べると交通事故の発生が多い。

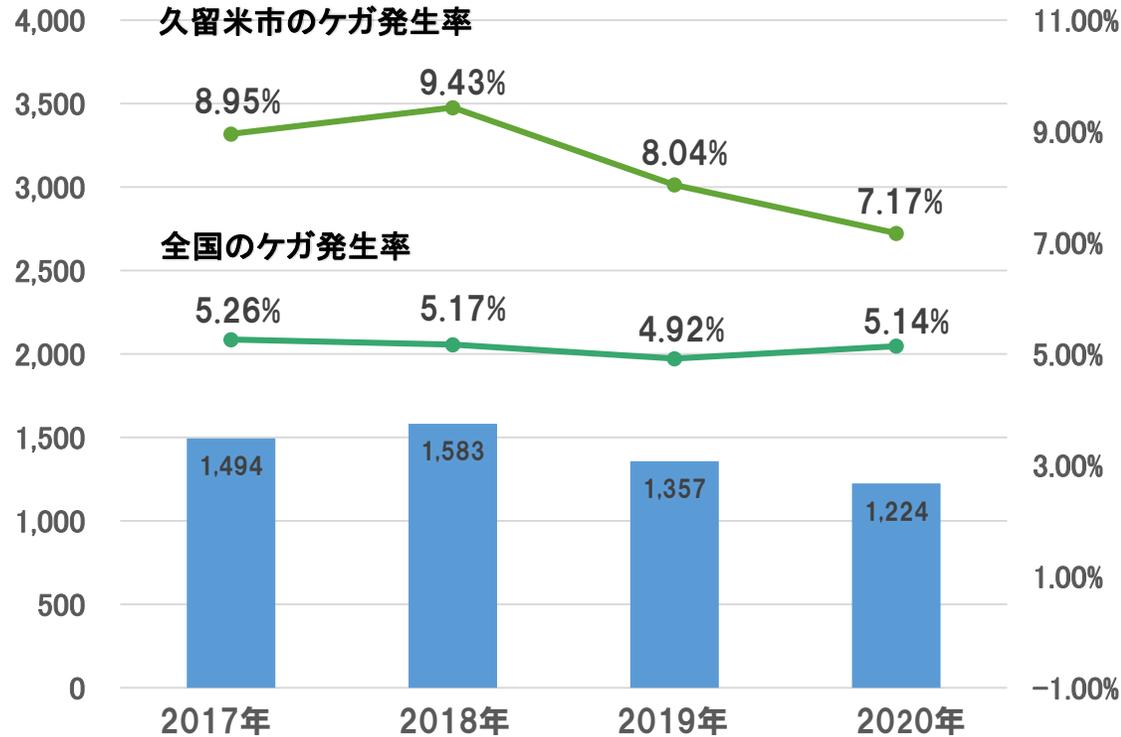
## 病気を除く年齢層別死亡原因 2016~2020累計(人口動態調査)

| 年齢層    | 1位        | 2位           | 3位           | 4位           | 5位                       |
|--------|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------------------|
| 0~9歳   | 溺死・溺水(2)  | 転倒・転落(1)     |              |              |                          |
| 10~19歳 | 自殺(13)    | 交通事故(2)      | 転倒・転落(1)     |              |                          |
| 20~29歳 | 自殺(23)    | 交通事故(7)      | 転倒・転落(1)     |              |                          |
| 30~39歳 | 自殺(30)    | 溺死・溺水(3)     | 交通事故(1)      | 転倒・転落(1)     | 窒息(1)                    |
| 40~49歳 | 自殺(43)    | 転倒・転落(4)     | 窒息(4)        | 交通事故(3)      | 溺死・溺水/煙・火/中毒/その他不慮の事故(1) |
| 50~59歳 | 自殺(50)    | 交通事故(5)      | 溺死・溺水(4)     | その他不慮の事故(4)  | 窒息(3)<br>中毒(3)           |
| 60~69歳 | 自殺(39)    | 溺死・溺水(21)    | その他不慮の事故(12) | 窒息(10)       | 交通事故(9)                  |
| 70~79歳 | 溺死・溺水(52) | 自殺(31)       | 窒息(24)       | その他不慮の事故(16) | 転倒・転落(13)                |
| 80~89歳 | 溺死・溺水(83) | その他不慮の事故(34) | 転倒・転落(33)    | 窒息(33)       | 自殺(24)                   |
| 90歳以上  | 転倒・転落(45) | 溺死・溺水(28)    | 窒息(24)       | その他不慮の事故(20) | 自殺(5)                    |
| 合計     | 自殺(258)   | 溺死・溺水(194)   | 転倒・転落(106)   | 窒息(100)      | その他不慮の事故(87)             |

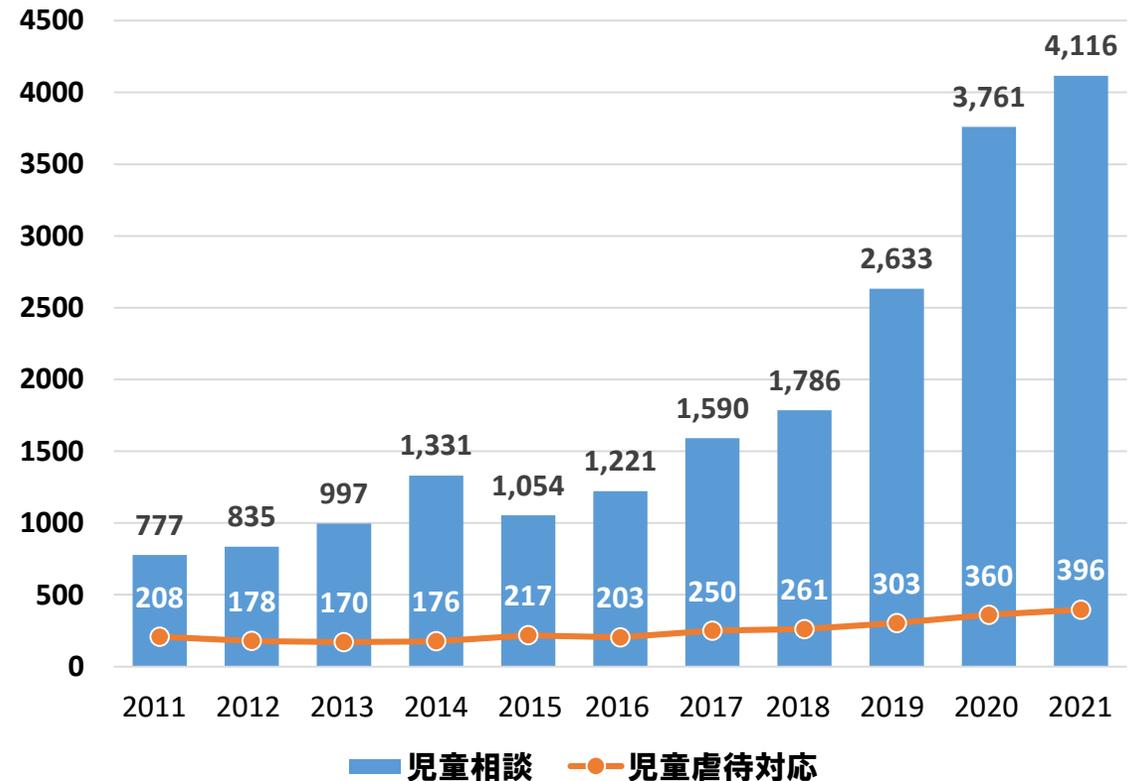
- 若年層では、交通事故が病気を除く死亡原因の2位である。

## 2-2-2.子どもの安全に関するデータ

小学校でのケガの発生状況  
(日本スポーツ振興センター災害給データ)



児童相談件数と児童虐待対応件数  
(家庭子ども相談課統計)

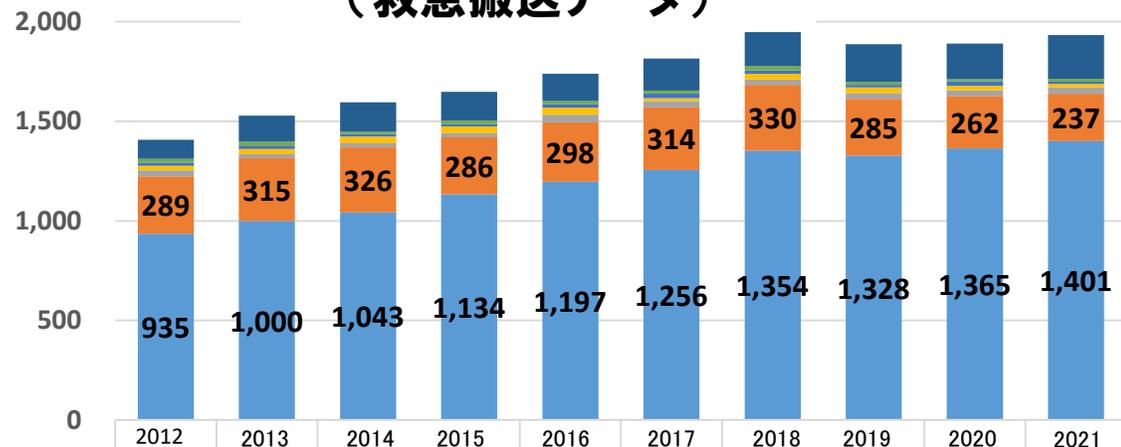


- 学校でのケガは減少している。
- 全国に比べると学校でのケガの発生が多い。

- 児童相談件数、児童虐待対応件数ともに増加傾向である。

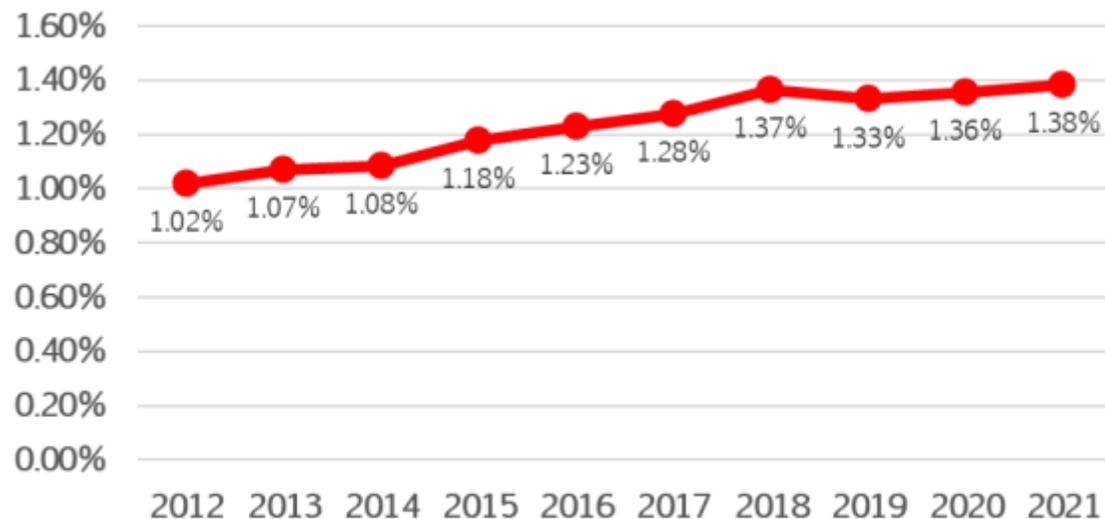
## 2-2-3.高齢者の安全に関するデータ①

高齢者の救急搬送原因  
(救急搬送データ)



|         |     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|---------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ■ その他   | 96  | 131   | 148   | 143   | 138   | 161   | 171   | 189   | 179   | 219   |
| ■ 自損行為  | 19  | 19    | 11    | 17    | 15    | 14    | 22    | 14    | 11    | 15    |
| ■ 浴槽に水没 | 16  | 17    | 14    | 13    | 19    | 24    | 17    | 14    | 23    | 10    |
| ■ 窒息    | 23  | 26    | 33    | 34    | 34    | 15    | 29    | 28    | 21    | 18    |
| ■ 異物誤飲  | 30  | 21    | 21    | 21    | 39    | 32    | 26    | 29    | 30    | 33    |
| ■ 交通    | 289 | 315   | 326   | 286   | 298   | 314   | 330   | 285   | 262   | 237   |
| ■ 転倒    | 935 | 1,000 | 1,043 | 1,134 | 1,197 | 1,256 | 1,354 | 1,328 | 1,365 | 1,401 |

高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合



|          | 2012   | 2013   | 2013   | 2013   | 2013   | 2013   | 2013   | 2013   | 2013    | 2013    |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 高齢者人口    | 91,657 | 93,450 | 96,154 | 96,258 | 97,424 | 98,357 | 99,159 | 99,894 | 100,599 | 101,335 |
| 転倒による搬送数 | 935    | 1,000  | 1,043  | 1,134  | 1,197  | 1,256  | 1,354  | 1,328  | 1,365   | 1,401   |

- 高齢者の救急搬送は増加傾向にある。
- 転倒による救急搬送の増加が目立つ。

- 高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合は増加している。

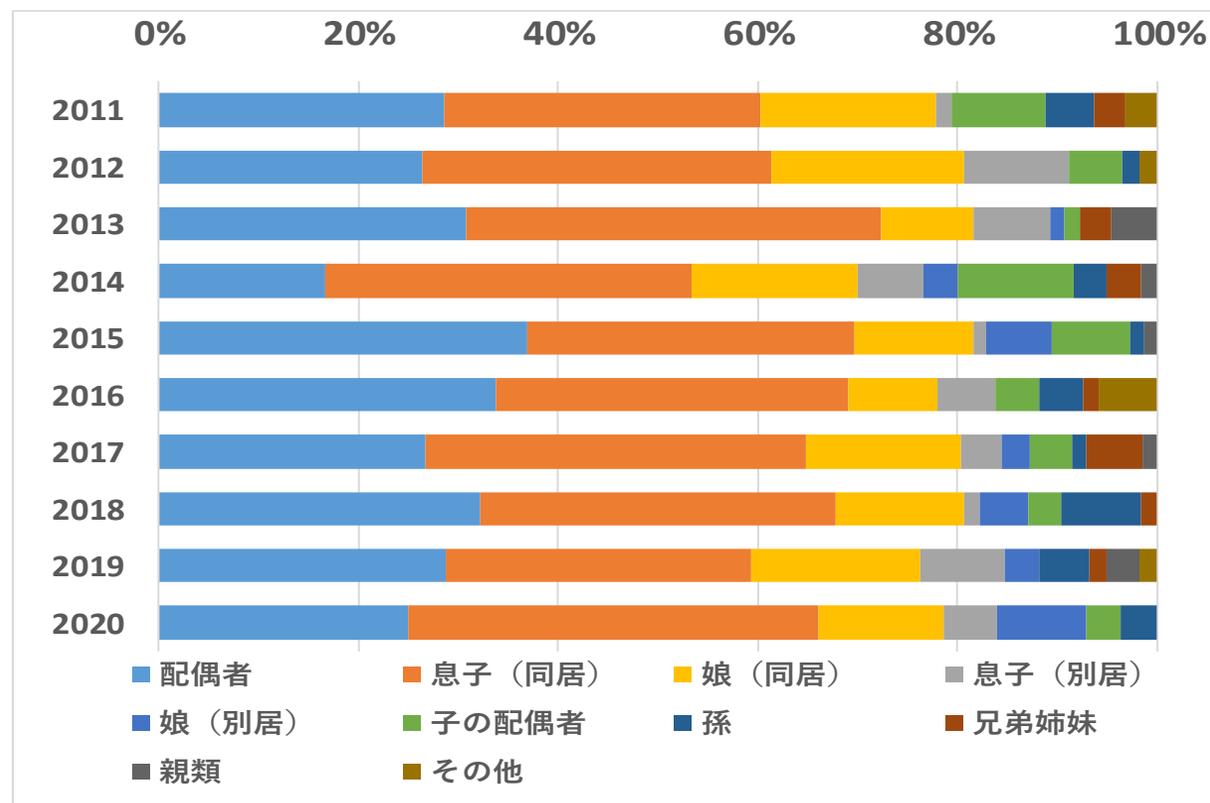
## 2-2-3.高齢者の安全に関するデータ②

高齢者虐待に関する相談件数と認定件数  
(長寿支援課集計)



➤ 近年、高齢者虐待に関する相談件数と認定件数は減少傾向にある。

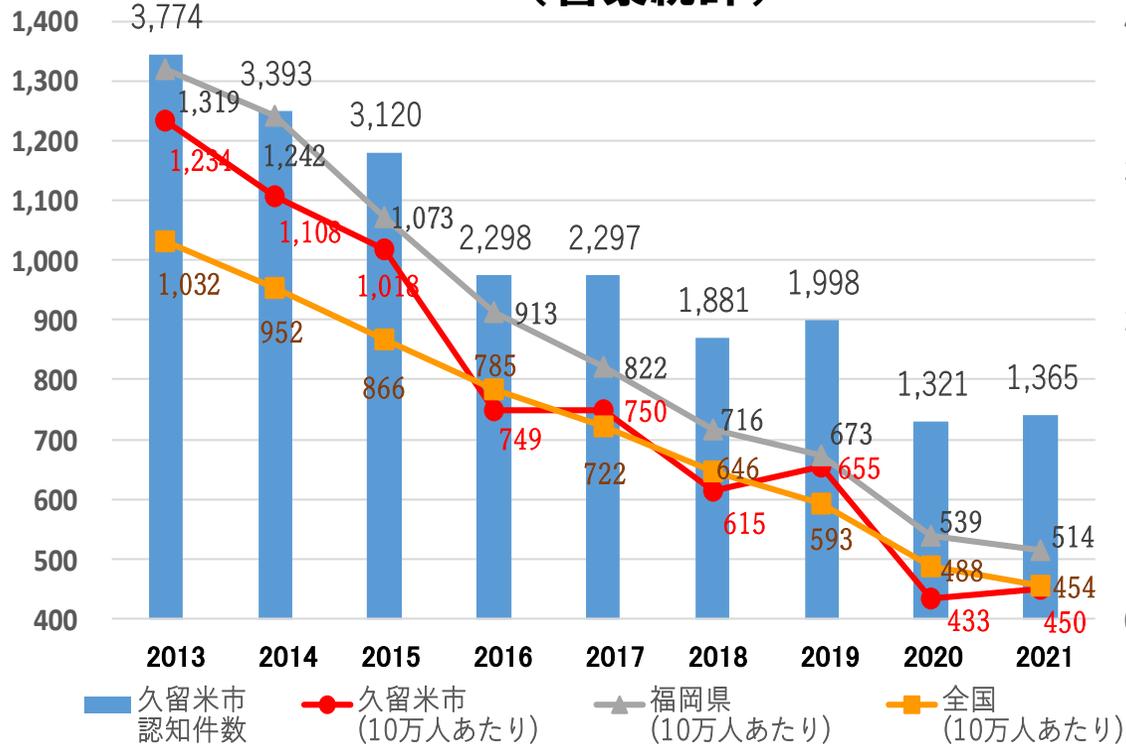
高齢者の虐待者の割合  
(長寿支援課集計)



➤ 高齢者の虐待は同居の家族によることが多い。

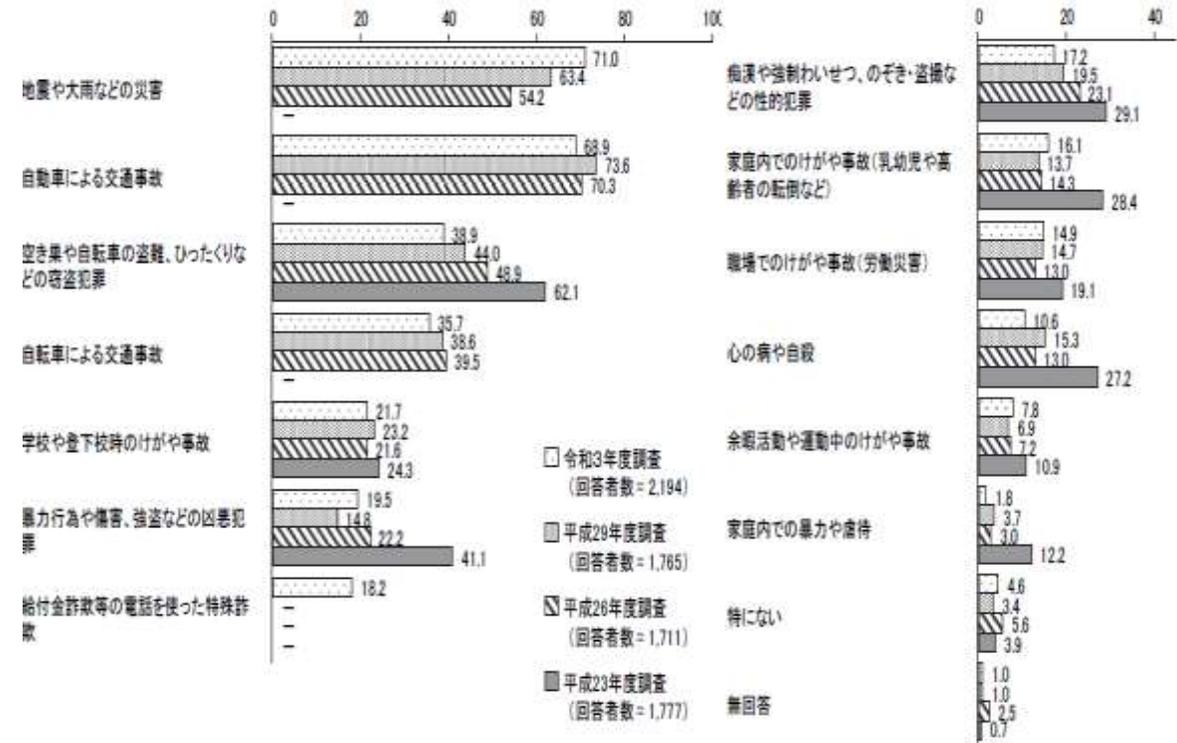
# 2-2-4.犯罪・暴力の予防に関するデータ①

## 一般刑法犯の認知状況 (警察統計)



- 一般刑法犯の認知件数は減少している。
- 人口10万人あたりの一般刑法犯認知件数は、近年、全国を下回っている。

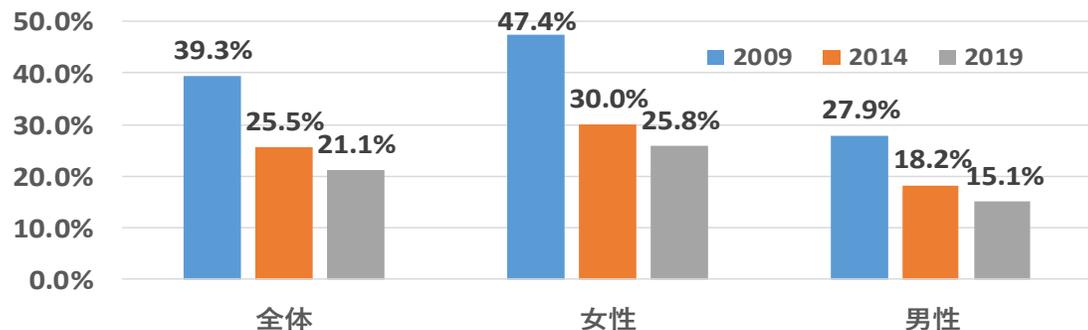
## ふだんの生活で不安に感じること (2021年久留米市民意識調査)



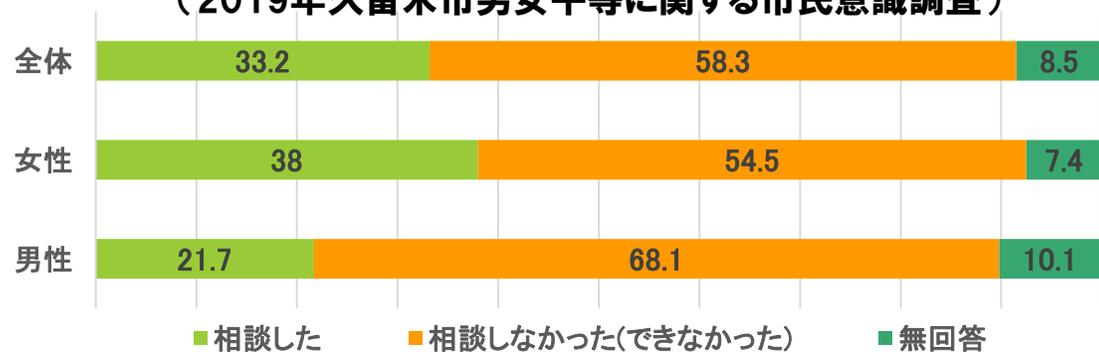
- ふだんの生活の中で、犯罪に対する市民の不安感は、災害、交通事故の次に高いが、空き巣などに対する不安感は低くなってきている。
- 新たな犯罪である電話を使った詐欺に対する不安感が生じている。

## 2-2-4. 犯罪・暴力の予防に関するデータ②

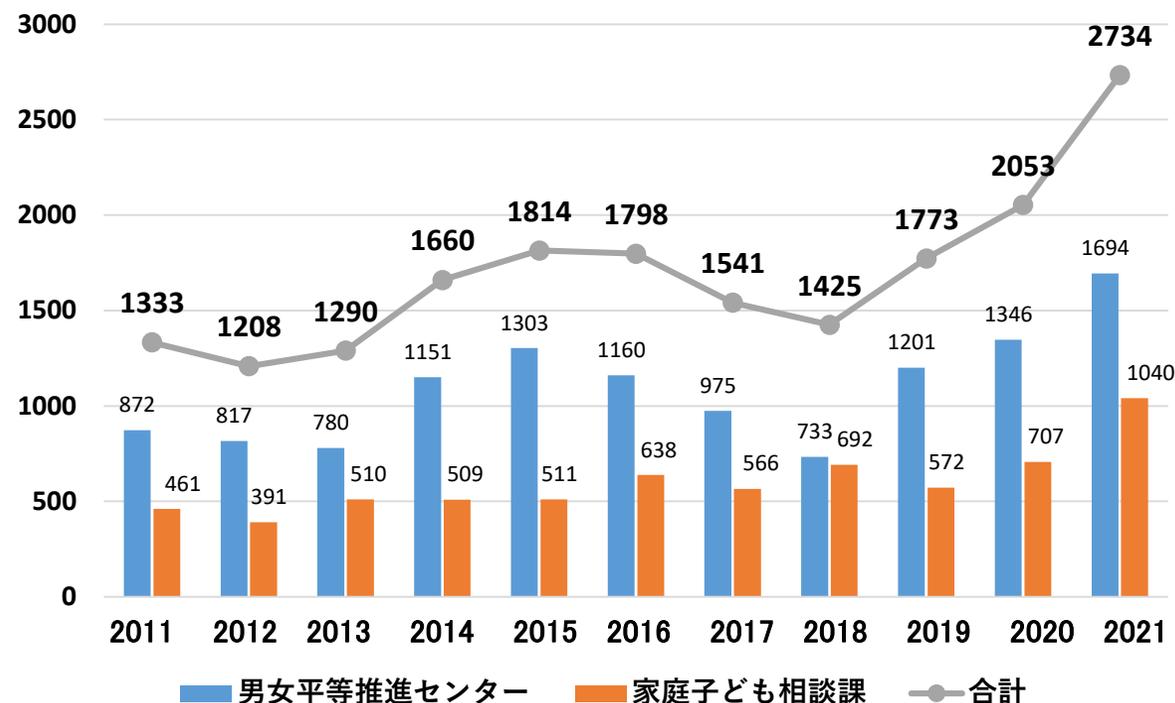
**DVを受けた経験がある人の割合**  
(2019年久留米市男女平等に関する市民意識調査)



**DVを受けて相談した人、相談しなかった人の割合**  
(2019年久留米市男女平等に関する市民意識調査)



**DVに関する相談件数**  
(男女平等推進センター、家庭子ども相談課統計)

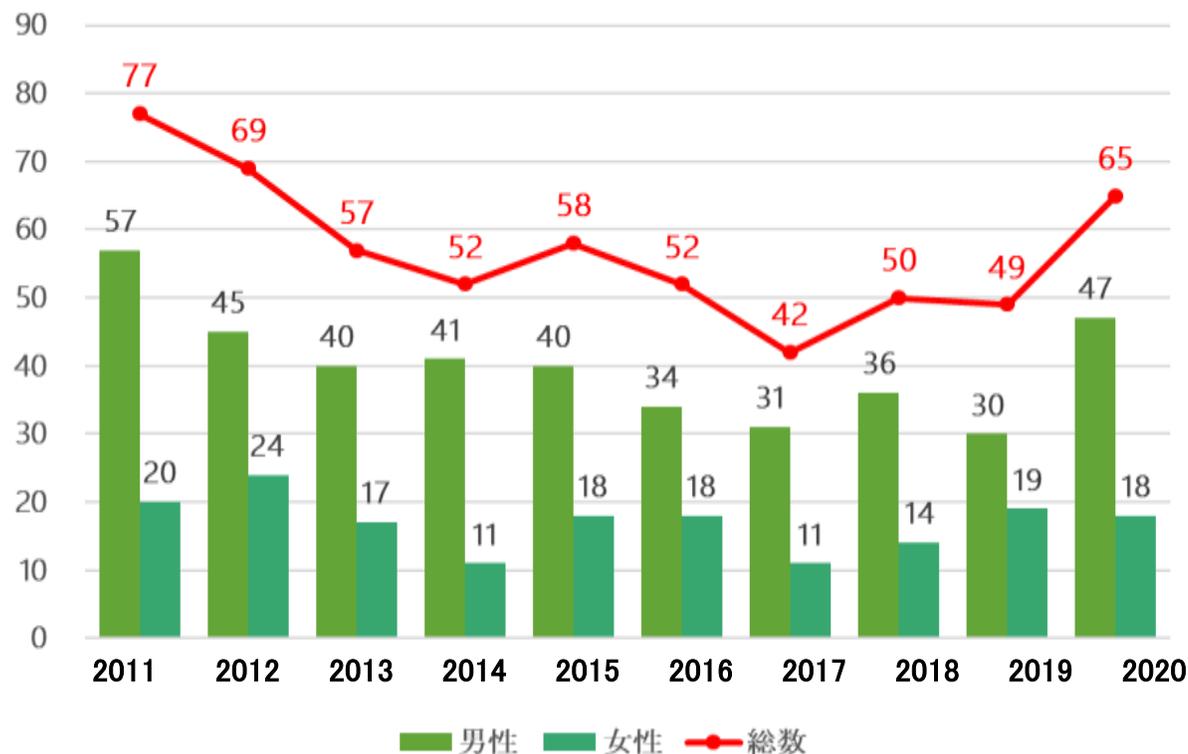


- DVを受けた経験のある人は減少している。
- DVを受けた経験のある人のうち、約6割は相談していない。

- DVに関する相談件数は増加傾向である。

## 2-2-5.自殺予防に関するデータ

自殺者数  
(人口動態統計)



➤ 自殺者数は減少傾向にあったが、全国的な傾向と同じく、2020年度は増加している。

年齢層別の死亡原因  
2015～2019累計(人口動態調査)

| 年齢層    | 1位             | 2位       | 3位           | 4位            | 5位                           |
|--------|----------------|----------|--------------|---------------|------------------------------|
| 0～9歳   | 染色体異常等(14)     | その他(8)   | 感染症等(3)      | 周産期に発生した病態(3) | 新生物(腫瘍)/インフルエンザ/不慮の溺死及び溺水(2) |
| 10～19歳 | 自殺(12)         | 不慮の事故(4) | 新生物(腫瘍)(4)   | 神経系の疾患(2)     |                              |
| 20～29歳 | 自殺(27)         | 不慮の事故(7) | 新生物(腫瘍)(7)   | その他の外因(4)     | 心疾患(3)                       |
| 30～39歳 | 新生物(腫瘍)(27)    | 自殺(23)   | 不慮の事故(6)     | 脳血管疾患(6)      | その他の症状(4)                    |
| 40～49歳 | 新生物(腫瘍)(124)   | 自殺(41)   | 脳血管疾患(28)    | 消化器系の疾患(17)   | 不慮の事故(14)                    |
| 50～59歳 | 新生物(腫瘍)(255)   | 自殺(49)   | 脳血管疾患(45)    | 心疾患(36)       | 消化器系の疾患(35)                  |
| 60～69歳 | 新生物(腫瘍)(846)   | 心疾患(119) | 脳血管疾患(96)    | 消化器系の疾患(84)   | その他の呼吸器系疾患(64)               |
| 70～79歳 | 新生物(腫瘍)(1,320) | 心疾患(234) | 脳血管疾患(193)   | 肺炎(182)       | その他の呼吸器系疾患(159)              |
| 80～89歳 | 新生物(腫瘍)(1,652) | 心疾患(678) | 肺炎(489)      | 脳血管疾患(474)    | その他の呼吸器系疾患(441)              |
| 90歳以上  | 心疾患(670)       | 老衰(654)  | 新生物(腫瘍)(602) | 肺炎(433)       | 脳血管疾患(381)                   |

➤ 10歳代、20歳代では、自殺が死亡原因の第1位、30歳代、40歳代、50歳代では第2位である。

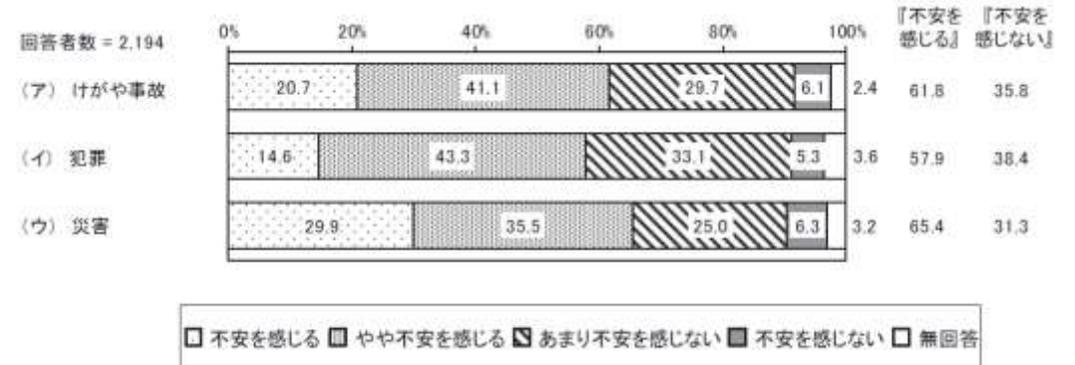
# 2-2-6.防災に関するデータ

## 近年の降雨状況(都市建設部まとめ)

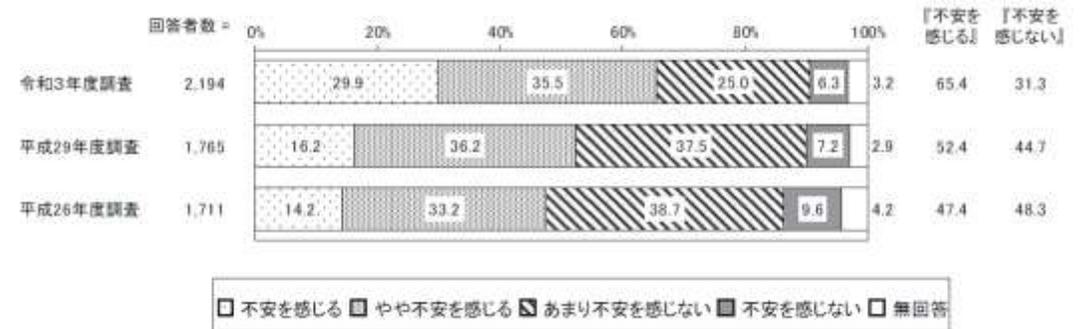
| 時期          | 1時間<br>最大雨量<br>(mm) | 3時間<br>最大雨量<br>(mm) | 24時間<br>最大雨量<br>(mm) | 48時間<br>最大雨量<br>(mm) | 72時間<br>最大雨量<br>(mm) | 総雨量<br>(mm)        | 浸水件数                   |
|-------------|---------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|------------------------|
| 2018年<br>7月 | 40.5                |                     | 279.5<br>観測史上<br>1位  | 383.5<br>観測史上<br>1位  |                      | 386.0<br>(7/5~8)   | 床上: 423件<br>床下: 1,011件 |
| 2019年<br>7月 | 90.0<br>観測史上<br>1位  | 177.5<br>観測史上<br>1位 | 335.5<br>観測史上<br>1位  | 402.5<br>観測史上<br>1位  |                      | 474.5<br>(7/18~23) | 床上: 196件<br>床下: 120件   |
| 2019年<br>8月 | 60.5                | 147.0               | 330                  | 408.0                |                      | 408.0<br>(8/26~29) | 床上: 27件<br>床下: 24件     |
| 2020年<br>6月 | 92.5<br>観測史上<br>1位  |                     | 193.5                | 194.0                |                      | 194.0<br>(6/26~29) |                        |
| 2020年<br>7月 | 48.0                | 105.5               | 360.5<br>観測史上<br>1位  | 483.0<br>観測史上<br>1位  | 529.0                | 735.0<br>(7/5~10)  | 床上: 335件<br>床下: 1,620件 |
| 2021年<br>8月 | 72.0                |                     | 387.0<br>観測史上<br>1位  | 572.5<br>観測史上<br>1位  | 718.5<br>観測史上<br>1位  | 896.5<br>(8/11~19) | 床上: 518件<br>床下: 2,194件 |

➤ 近年、降雨量が増えており、2018年から2020年まで連続して、住宅の浸水被害が発生している。

## けがや事故、犯罪、災害に対する不安感 (2021年久留米市民意識調査)



## 災害に対する不安感の経年変化 (2021年久留米市民意識調査)



➤ 市民の災害に対する不安感が増大している。

## 2-3-1. 対策委員会の取組成果の検証

原因分析と対策は  
対応しているか

・ 対策の効果を測る指標となっているか  
・ 対策の効果は出ているか

課題

対策

短中期・長期の  
成果指標

➤ 各対策の成果指標に加え、各種関連データの推移を加味し、取組を検証

➤ 推進協議会・対策委員会へのアドバイスを実施

成果指標以外の関連データ  
・セーフコミュニティ実態調査  
・市民意識調査  
・救急搬送データ等  
各種統計データ

## 2-3-2.推進協議会・対策委員会へのアドバイス例①

| 委員会     | セーフコミュニティ推進協議会   |
|---------|--|
| 着目したデータ | セーフコミュニティの取組の中には、市民によく知られているものがある一方で、市民の参加意欲は高くない。   |
| アドバイス   | さらに安全安心の向上を目指すには、市民参加の拡大が課題の一つだと思う。セーフコミュニティの取組を、ローカルTV番組で放映して市民の認識を高めることを検討してはどうか？ 安全安心に取組む身近な市民の姿や思いを映像で目にするには、参加意欲に繋がると思う。また、そうした映像は、アーカイブとして視聴できるようにするのも良いと思う。 |
| 対応      | セーフコミュニティの取組内容や市民の声を動画に撮影し、シリーズとして、公式YouTubeに配信していきたい。そして、シリーズ完結後はアーカイブとして活用していく予定である。さらに、配信した動画を、地元のケーブルTVで放映することについて検討していく。                                      |

## 2-3-2.推進協議会・対策委員会へのアドバイス例②

| 委員会     | 交通安全対策委員会  |
|---------|--|
| 着目したデータ | 高齢者が加害者となる事故の割合が増加傾向にある。<br>認知機能の衰えた高齢者は交通違反が多い傾向が見られるという研究報告がある。                            |
| アドバイス   | 高齢者関連の事故を減らすには、運転をしないことが最もよいと思われる。成果指標を見ると自主返納の件数が減少しているようだが、積極的に運転免許の自主返納を促す対策の実施を検討できないか？  |
| 対応      | 自主返納の減少は、免許更新を行わない方もいるので、その影響があるのかもしれないと思うが、自主返納を促す対策については、他の地域における対策の実施状況なども踏まえながら検討を行っていく。 |

## 2-3-2.推進協議会・対策委員会へのアドバイス例③

| 委員会     | 児童虐待防止対策委員会   |
|---------|---|
| 着目したデータ | 2019年、2020年の児童虐待者の内訳を見ると、父親による虐待が増加する傾向が見られる。   |
| アドバイス   | 児童虐待防止対策では、虐待者の6割が実母によるものであったことに着目されているが、近年、父親による虐待が増加する傾向が見られる。父親に着目した対策を検討できないか？  |
| 対応      | 父親への直接のアプローチは困難であるが、現在の対策としては、母子手帳交付の機会を捉えて、父親への啓発を行っている。<br>また、街頭キャンペーンでは、男性に積極的に声を掛けるようにしている。<br>これからも、男性との接点を捉えて、直接的な啓発を行っていきたい。 |

# 3 課題と今後の対応

## 3.課題と今後の対応

### ① 重点取組項目以外のデータの分析

#### ➤ セーフコミュニティ実態調査や救急搬送データの分析

- (例1) 家庭内や職場などで発生するけがが、いつ、どこで発生しているのかを、実態調査や救急搬送データを基に分析を行い、年齢層などに応じて、日常生活で留意すべきことを明確にしていく。
- (例2) 高齢者の死因の上位である窒息について、原因の食べ物や、基礎疾患との関連などを救急搬送データなどを基に明らかにしていく。

### ② 医療機関等との連携の強化

#### ➤ 医療機関等における安全対策の分析

- (例) 高齢者の死因の上位でありながら、対策が難しい窒息や溺死などについて、医療機関等で講じられている安全対策を基に、家庭でできる対策について検討していく。

**外傷等動向調査委員会は、久留米市の安全安心の向上を目指し、より広範なデータの分析や、関連機関との連携の強化を図っていく。**